

日本讀本六 四十一枚表悲イカナヨリカヒナキ物ハ後悔ナリ迄

解義 日本讀本五讀方ノ所ニテ唯人ニ於テハヨリ終迄

日本讀本六 讀方ノ所ニテ初ヨリ一杯ノ水ヲ供シ難シ迄

書取 山ノ絶頂ヨリ絶ヘス烟ヲ吹キ出セリ

諸子ハコレニ就キテ旅行ノ道ヲ復習セヨ

作文科 製茶賣渡代金四拾五圓を取に遣す父 鯨

習字科 別段御障り無御坐候哉

算術科

(一) 金百九拾六圓拾錢ヲ以テ一俵ノ代貳圓六拾五錢ノ麥若干俵ヲ買ヒタリ其俵數ヲ

問フ

(二) 絹一反ノ價四圓六拾五錢ノ割ニテ四十七反ヲ買ヒ之ヲ賣リテ貳百貳拾四圓拾九

錢ヲ得タリ一反ニ付利金幾何

(四) 速加算 金三圓四拾貳錢八厘 金五拾六錢三厘 金貳圓九拾五錢八厘

金四圓五拾八錢 金拾六圓五拾七錢 金七圓三拾八錢七厘

金三拾貳錢六厘 金貳拾三圓七拾五錢 金拾四圓四拾六錢

金三拾七圓九拾三錢

体操科 亞鈴体操第一法第五節ヨリ第十五節迄

第一年期 佐倉尋常小學校

修身科

父母の恩は山よりも高し 汝等ニ食物ヲ與ヘ汝等ニ衣服ヲ着セ其他種々ナル苦勞

ヲナシテ汝等ヲ育テ給フハ誰 答父母ナリ

然ラハ汝等ハ誰ノ才蔭テ成長スルヤ 答父母

然ラハ如何シテ某恩ニ報ユルヤ 答父母ヲ大事ニシテ善ク其言フヲキ、マス

人ヨリ物ヲ貰フタルトキハ何ト言フヤ 答ありがたうござります いただきます

受験中ノ言語容姿

讀書科

みなさんはいままでになにをならひましたか
かたかなどひらがなとすうじをならひました
以上讀ミ且ッ解セシム
日本讀本初歩二 牛羊ハヨリケツトノ如シ迄ヲ讀ミ且ッ解セシム

算術科

- (一) 一千三百六十八ヲ算用數字ニ直サシム
- (二) 洋算暗算 $25 \overline{) 148} = 5 \dots 8$
- (三) 筆八本ト六本ト五本トヲ合セヨ
- (四) 四十八ノ實物計方

紙

習字科 下土吉太月

書取 あれはきんじよのだんせいとてあります

木ノ上ニモユキフリタリ ありめん 牛ハ千ビキ

第二一年期

修身科

苦みは樂みの種 平生怠レハ試験ノキニ至リテ如何

答平生怠レハ試験ノ節苦ミヲ覺フ

試験ノ節快樂ヲ得ント欲セハ如何スルヤ 答常平生勉強シマス

岩次カ幕府ヨリ褒美ヲ賜ハリ且ツ月給ヲ受ケ一生安樂ニ暮セシハ何故

答家業ヲ勵ミ勞苦シテ父母ヲ養ヒシ故ナリ

自分ノ身体ヲ見苦シカラヌ様ニセメニハ如何スルヤ 受験中ノ言語容姿

讀書科

縁ノ波風ニシタガヒテ起ルコレハ麥畑ナリ 金巾は木綿糸にて織る

犬ハ未ダ新聞ヲ見ヌナルベシ 砂糖ノ味ハ甘ク梅ハ酸シ
 人ニ劣ルヲ耻カシク思ハバ怠ルナ ○記号ヲ付シタルヲ解セシム
 水無クレバ雨モフラズ云々ヨリ大切ナルモノハナシマデヲ讀ミ且ツ解セシム
 書取 本を賣る人あり 着物 茶色 細き流れも未終に 約束 新聞 暑サ

算術科

(一)暗算五、八、九、七、四、三ヲ合セ四、七、八、ヲ減セヨ

(二)筆算 $1645 + 5308 = 6192$

(三)金貳錢四厘ニテ筆ヲ買ヒ三錢九厘ニテ墨ヲ買ヒ拾錢ノ銀貨ニテ拂フトキハツリ
 何程ヲトリテ可ナルヤ

(四)五百六十八クト一万二千三百五クト七千八百七十六クト合セ一万八千五百六十
 二クヲ減セヨ

作文科 桃太郎ノ小説をニサソニチノアイダオカリマウシタウゴザリマス

右口上書ニナホサシム

炭

習字科 手紙端書筆

体操科 矯正術第一節ヨリ十五節マテ

第三二期

修身科

人に親切を盡すハ我が身に親切を盡すに同じ 若シ惡兒童アリテ幼弱ナル汝等ノ
 朋友ヲ歐打セントスルトキハ汝等其側ニ在ラハ如何ナルヤ

答就令已レ打タル、トモ之ヲ遮リテ打タシメザルベシ

斯ノ如ク友ニ親切ヲ盡スハ友ヲ益スルノミニシテ汝自ラヲ益スルヲハナキハ
 答友ノ情ヲ深クシ自分モ亦救ハル、コアルヘシ

亞米利加ノ或學校ノ或強壯ナル生徒ハ何故ニ瘦弱ナル生徒ト席ヲ代ヘシヤ

答瘦弱ナル生徒ノ鞭撻セラレントスルヲ救ヒ已レ代リテ其痛苦ヲ受クント欲

セシ故ナリ

後年其強壯ナル生徒死罪ヲ免ル、ヲ得タルハ何故 答往年人ヲ救ヒシ故ナリ
長者ト道ヲ行クトキ長者ニ途ニ逢フトキ長者ノ談話ヲ聽クトキハ如何スルヤ
受験中ノ言語容姿

体操科 第一徒手体操初ヨリ終リ迄

讀書科 汁ヲ煮粥ヲ焚クハ吾ガ務メナリ 昆布和布ハ海ノ底ノ草ナリ

○コノ小刀ハ美シカラズヤ 老人ハ夜ノ明ク難キニ苦シム

○鮮魚ハ食用ニシ又肥料ニス ○号ヲ付シタルヲ解セシム

日本讀本四 廿五枚目ノ裏忌ミ終リテヨリ掘リ返シケリ迄ヲ讀ミ且ツ解セシム

書取 塗り物 蜜柑 番頭 股引 場所 收納 勘定 茶碗 濱邊 藁積ミ

作文科 清水港鈴木市太郎へ砂糖二十五樽ヲ便舩ニテ送ル送狀ヲ作レ

注文したる品を催促する口上

算 術

(一)暗算六、八、七、五、九、四、十二、ヲ合セ五、七八ヒケ

(11)筆算(1245—6490.85)=?

(三)貳拾貳圓五拾錢ノ金ヲ以テ一俵四拾八錢ノ炭三十八俵ヲ買ヒ其殘金ニテ材木六
本ヲ買フトキハ一本ノ代金何程ニ當ルヤ 答七拾壹錢

(四)一尺ノ代金五錢六厘ノ布二十四尺ヲ買ヒ金七拾八錢五厘拂フトキハ不足金何程
ナルヤ 答五拾五錢九厘

習字科 其後ハ取紛れ御無音に打過候間御起居相伺度候

第 四 年 期

修 身 科

仁者は盛衰ヲ以テ節ヲ改メス義者ハ存亡ヲ以テ心ヲ易ヘス

汝他日富貴ノ身トナリ汝ノ朋友又ハ親戚ニシテ貧賤ニ陥リ襁褓ヲ纏フテ汝ノ家ニ至

ヲハ如何ニ之ヲ遇スルヤ 答善ク之ヲ遇セン

其身富貴トナレハ貧賤ナル故ノ朋友ヲ棄テ富貴ナル人ト交リ貧賤ナル親戚ヲ疎ンツ
富貴ナル親戚トノミ親ムモ可ナルヤ 答否斯ノ如キハ不仁ナリ不義ナリ決シテ貧

富貴賤ニ因テ交情ヲ兩ニスベカラス

萬助ノ主家ヲ去ルコトヲ肯セサリシハ何故 答多年恩ヲ受ケタル主家ノ貧苦ヲ知リ

ツ、見捨テ、去ルニ忍ヒサレハナリ

萬助晝夜興ヲ昇キ勞苦セシハ何ノ爲メソ 答主家ノ生計ヲ助ケンカ爲ナリ

人ト談話應對スルニ當テ己ノ品格ヲ保タントスルニハ如何ナル件々ヲ注意スベキヤ

受験中ノ言語容姿

讀書科

。車胤の故事よりして苦學することを螢を聚むといふなり

飽食して優遊し運動をなさざれば遂に疾を醸すに至る 鱗は細微にして見難

く全身極めて粘滑なり 粒々皆辛苦ナルコトヲ思ヒ決シテ之ヲ輕視スヘカラス

砲刑ニ處セラル、ハ固ヨリ其期スル所ナレハ自若トシテ神色變セス

。記号ヲ附シタルヲ解セシム

書取 板狀 適五 建築 縱横 絶望 承諾 消滅 會釋 精神 疑懼

作文科 膳椀 借る文 出生届

算術科

(一)速算 六圓四拾錢、九圓四拾錢、五圓三拾八錢、七圓五拾三錢、八圓七拾七錢、九
拾八錢、六拾四錢、七圓八拾九錢ヲ合セ引クコト壹圓九拾七錢、九拾八錢、五拾六錢
八圓拾六錢 答三拾三圓三拾貳錢

(二)筆算 $6405 - 5898 = 276 = 140484$

(三) $179520 \div 8 = 85 = 14044$

(四)茶碗廿五ヲ買フニ壹圓札ヲ出シテ拾貳錢五厘ノ釣ヲ受取レバ一ケノ價幾何

答三錢五厘

(五)一升六錢八厘ノ米石六斗五升ヲ賣リ一俵五拾六錢壹厘ノ炭何俵ヲ買ヒ得ヘキヤ
答廿俵

習字科 後園之茶葉本年始テ摘取り少ク自製相試み候ま御風味迄に一煎差上申候

第一年期 比木尋常小學校

讀書科

日本讀本初歩卷ノ一 ハルハ花咲云々ヨリタチウツ迄 内二行口解

同 卷二 大工ハ云々ヨリ カベ土迄 内二行口解

摘書 ほん くり 大キナルイヌ 牛ハ千ビキニアマル

書取科 ヲ フチ サル カゼフク かも 山ノウヘニ木アリ

修身科

學校往返ノ心得 教 朝起タレバ先ツ如何カスヘキヤ 生 顔ヲ洗フナリ

教 然ルノチ誰レニ挨拶ヲナスヤ 生 父母ニ禮ヲナスナリ

教 其ノ後何ヲナスヤ 生 朝飯ヲ食セリ

教 朝飯終レハ學校ニ持チ行クヘキ書冊其他ノ用具ハ如何ニスルヤ 生 一々

取リ揃ユルナリ

教 取リ揃ヘシ後學校ヘ行クハ父母ニ何等ノ言辭ヲナスヤ 生 行テマイリマ

スト云フ

教 學校ニテ五時間ノ稽古ヲナシ終リ家ニ歸リシトキ父母ヘ挨拶ヲナス言語ハナシ

ト云ヘリ 生 唯今歸リマシタト云ヘリ

教 父母ニ挨拶終リシ後道具ヲ如何ニスルヤ 生 机上ニオクナリ

教 然ラハ其道具ハ日々一定ノ處ニオクヤ又其場所ハ一定シオラザルヤ 生 日

日一定シテ机上トキメオクナリ

作文科 オス (椅子) 實物ヲ示シテ之ヲ作ラシム

スレリ (碩) 同

算術科

(一) 口誦暗算 或ル圍ニ牛十二頭ト馬八頭ト遊ヘリ總數何頭ナルヤ

(二) 三万六千二百四十七 (數字書方位取)

(三) 四十五 (數方指數器ニヨリテ問)

(四) 筆立ニ水筆五本ト鉛筆六本ト石筆三本立テ、アリ總數何本ナルヤ

(五) 池ノ中ニ鯉ト金魚五十尾アリ内廿五尾死シタリ残りタル金魚ト鯉トハ何尾ナ

ルヤ

習字科 墨ギノムラ

第二年期

讀書科

日本讀本一ノ卷 十八枚裏三行目ヨリ十行迄

同 内講義寺ノカ子ハ何時ヲウチシヤマテ
卷ノ二 十九枚裏八行目ヨリ九行迄

内講義子猿カ親ヲ思フ心マコトニアハレナリマテ

摘書 百姓 大切 朝夕 様々 朝夕 此馬ハ黒馬ナリ 麻糸は丈夫なり

書取科 硯 梯 高砂 宇治 大根 野菜 櫻 着物 洋服 袴 約束 會社

修身科 作法

教 友達ヨリ物ヲ借リルニハ先ツ其人ノ前ニ行キテ如何スヘキヤ 生 禮ヲナス

教 禮ヲナシテ次ニ何ト云フヘキヤ 生 チノレガ借用セントスル品ノ口上ヲ述ブ

教 其口上ハ如何ナルヲ云フヤ 生 御氣ノ毒テスカ何品ヲ何程カシテ下サレマシ

教 貸シ呉レシ後如何スヘキヤ 生 禮ヲナシテ退ク

格言事實

教 晋ノ王祥ハ誰レニ仕ヘテ如何ナル事業アリシヤ 生 繼母ニ事ヘテ孝順ナリ

教 母王祥ニ向ツテ何ヲ望ミシヤ 生 生魚ヲ望ミタリ
 教 時氣候ハ如何ナルヤ 生 天寒クシテ水涼レリ
 教 其時王祥ハ如何ニシテ魚ヲ捕リシヤ 生 王祥ハ衣ヲ解キ氷ヲ剖リ魚ヲ求メ
 ヲトセシニ氷自然ニ解ケテ双鯉水中ヨリ躍リ出ツ
 教 母又何品ヲ望ミシヤ 生 雀ノ炙ヲ望ミタリ
 教 如何ニシテ雀ヲ捕ヘシヤ 生 オノヅカラ雀數十羽家ニ飛ヒ入レリ
 教 斯鯉ト云ヒ雀ト云ヒ工夫ヲ費ヤサスシテ自然ニ捕フルヲ得ルハ皆何ノ惠ナルヤ
 生 篤孝ニシテ天ノ惠ヲ受ケシモノナリ
 作文科 椀五人前借リル口上書 本箱

算 術 科

(一) 暗算 二ケ五ケ三ケ十ケ引ク十五個
 (二) 或學校ノ生徒男女共九百八十三人ナリ内男子ハ八百九十四人ナリ然ルルキハ女子

ハ何人ナルヤ

(三) 紙百五十張ヲ買ヒ内九十五張ヲツカヘハ残り何状
 (四) 麥米大豆合シテ三百俵アリ内大豆ハ三十九俵米ハ五十九俵ナリト云フ然ルルキハ
 麥何俵ナルヤ

(五) 或入市ニ行キ三拾五錢ノ品物及ヒ拾圓五拾九錢ノ品物ヲ買ヒテ拾圓札ヲバラヘ
 リ然ルルキハ猶何程ヲハラウテ可ナルヤ

習字科 明昨時星春

體操科 矯正術十六節

第 三 年 期

讀 書 科

日本讀本卷三 三十二丁農工商ノ家云々ヨリ買フコトヲ得ズ迄
 内口解農ナケレバ云々ヨリ買フコトヲ得ス迄

同 卷四 三十四丁今カク安全云々ヨリ多ク載セアラソ

内口解海ヲ隔テタルヨリ商賈ニ行クマテ

摘書 裁縫 先祖 職業 修覆 汝親切ニ言ヘハ親切ノ言ガ返リ來リ

汝正直ノ報ナレハ汝カ所有物タルヲ勿論ナリ

畫取科 詞名 肥料 衣服 祭日 運動 豐年 都會 儉約 辛苦 產物

修身科

作法 來客ノ際父母ノ助手ヲシテ主客對坐話ノ際其場ヘ茶器其他ノ器具ヲ持チ運フ

格言事實

格言

兄弟ハ相救セ相憐ミ相助ケルヲ務メヘシ 實行 晋ノ王祥王覽ノ話

作法 來客ノ節父母ノ助手ヲシテ客室ヘ茶器其他ノ物ヲ運フキ其器具ヲ如何ナ

ル所ニ置キ如何ナル禮ヲナスヤ 生 主客對坐ノ後方ヨリ主人ノ右方

ニ置キ時候適宜ノ禮ヲ鄭重ニナス

教 再度持出ツルキハ如何ナル禮ヲナシ如何ナル所ニオクヤ 生 只默禮シテ

置場ハ前ニ異ルオシ

格言事實

教 兄弟ハ常ニ如何スヘキヤ 生 相和スルナリ

教 兄ノ弟ニ對スル弟ノ兄ニ對スル如何 生 兄ハ弟ヲ憐ミ弟ハ兄ニ順フ

教 兄弟ニ危難アルトハ如何 生 相助クルナリ

實行 教 晋ノ王祥王覽ハ如何ナル人ゾ 生 孝行ノ人ナリ

教 母朱氏ハ王祥ニハ如何ナル人 生 繼母ナリ

教 母ノ王祥ニ對スル如何 生 過刻ナリ

教 母ノ王祥ニ事業ヲサシムル如何ナル輕重アリヤ 生 過度ノ事業ヲ爲サシム

教 其時弟王覽ニ如何セシヤ 生 其事業ヲ分チテ己レモ同シク之ヲ爲ス

教 母ノ王祥ヲ害セントセシテアリヤ 生 アリ
 教 如何ナルヲシテ害セントセシ 生 酒中ニ毒ヲ入レテ斃殺セントセリ
 教 王覽ハ其時如何セシヤ 生 酒中毒アルカ知テ酒ヲ探リ兄弟争フ
 教 母ハ之ヲ見テ如何セシヤ 生 母之ヲ探リ急ニ翻セリ
 教 其後母ノ王祥ニ飯ヲ與フルヲニ王覽如何セシ 生 毒アルカト疑テ己レ先之
 ヲ嘗ム

教 其後兄弟如何ナル人トナリシヤ 生 位高キ役人トナレリ
 作文科 書物ノ代價ヲ問合スル父 麥五俵米六俵豆七俵ヲ生徒自ラカ榛原郡
 相良町八木梅吉ヘ送ル送狀式ヲ作レ

算 術 科

(一)暗算 十三個七個五個六個ノ和ヨリ三十個ヲ減セヨ
 (二)米四斗二升入一俵ノ代金三圓拾五錢ナリ一升ノ代金ヲ問フ

(三)一升ノ價三拾五錢ノ酒アリ三斗二升五合ノ代金ヲ問フ
 (四)一万一千四百三十個ヲ四十五分セヨ
 (五)大工一日ニ賃金拾五錢ト辦當料八錢ヲ得此人五十七日間働カハ幾何ノ金ヲ得ルヤ
 習字科 東京 京都 大坂
 体操科 徒手十六節

第 四 年 期

讀 書 科

日本讀本五 三十一丁裏痛マシキカナヨリ御衣ニカカリケレバ迄
 内講義痛マシキカナヨリ迷セ給フマテ
 同 六 四十一枚表悲イカナヨリ後悔ナリマテ
 内講義悲スカナヨリ水ヲ供シ難シ迄

摘書 繁昌 生活 清潔 徵兵 駿馬

書取科 結構 後悔 職業 橫濱 智慧 琉球 朝庭 勇氣 湊川 養生

修身科

作法

教 病氣見舞ニ行キシトキハ如何ニ言フヘキヤ 生 此間タ中カラ御病氣ナ

レモ存マセンテ御無沙汰致シマシタ

教 又見舞ニ物ヲ贈ラントスルニハ如何ナル物ヲ贈リ如何ニ言フヘキヤ

生 ナルタケ病人ノスコヨウナ体コサワラヌ物ヲ贈リ此品ワザト御見舞ニ差上マス

教 又歸ルトキハ如何ニ言フヘキヤ 生 サヨウナラ又伺ヒマス御大事ニナサイ

マシ

言格事實

教 人ニ交ルヘキ道如何 生 謙遊辭讓ヲ必要トナスナリ

教 智識ヲ發揮シテナスユトアルヲ求ムルニハ如何 生 己レヲ修ムル方ナリ

教 漢ノ張子房カ比上老人ノタメニ履ヲトリシハ何故ナリヤ 生 謙遊辭讓ヲ

專ラトセシナリ

教 高帝ヲ輔ケテ秦ノ乱ヲ平ケ項籍ヲ亡シ天下ヲ定メシハ何故ナルヤ 生 智識

ヲ發シテナスコトアルモノナリ

作文科 出產ヲ賀スル文 盜難屈

算術科

(一) 四圓五拾錢 三圓四拾三錢 九圓拾八錢四厘 拾壹圓三拾錢 八圓拾四錢

七圓拾九錢八厘 六圓拾八錢六厘 五圓拾七錢貳厘

(二) 酒十二樽ト一斗二升ノ價九拾八圓四拾錢ナリ一樽八圓宛トスレハ一升ノ價幾何

(三) 米百四十俵ト麥百七拾五俵ト價同シ麥一俵貳圓六拾錢ナルキハ米一俵ノ價如何

(四) 縱四十五間横五十八間ノ田アリ反別ニシテ何程

(五) 七千九百九十八クノ内ヨリ六千二百二十五クヲ減シ四クヲ乘シ八千五百〇四クヲ

加へ四十三ケニ割レ

習字科 春遊之好時節御供申度候

体操科 啞鈴十六節

第一年期

朝比奈尋常小學校

算術科

(一)二千七百四十五ト日本數字ニテ書セシム

(二)紙四十二枚ヲ數シム

(三)實物ヲ與ヘテ三十六ト十八ト二十九ヲ合算セシム

(四)實物ヲ與ヘテ三十九ト二十一ノ和ヨリ二十五ヲ減セシム

作文科 筆 製法及功用ヲ書セシム但實物ヲ示ス

修身科

孝行トハ如何ナルコソ

孝行ヲセシ事實ヲ語レ

家ヲ出入スルルキ父母ニ對シテ

ノ心得 出校ノ時間ト後レタルルキハ如何スルヤ

書取科 ウシ ガン タケノコ こつぶ あめ 大キナル 木アリ

習字科 ほんを ヨム

讀書科

シンプ ドビン ぬずみ きこ かと

イマハ 午ゼンナルカ 午ゴナルカ イマハ午ゼン六ツナリ

口解 イマハ午ゼンナルカヨリ終リ迄

第二年期

算術科

(一)五ト八ト七ト三ノ和ヨリ十一ヲ減セヨ暗算口唱

(二)二千三百六拾五俵ノ炭アリ此内一千二百八十九俵ヲ賣ルルキハ殘何俵ナルヤ

(三)或人金貳拾七錢五厘ニテ(シヤツ)ヲ買ヒ貳圓三拾貳錢ニテ帶ヲ買ヒ壹圓九拾貳

錢ニテ拾ヲ買フト云フ然ル時ハ總計幾何金ヲ費セシヤ

(四)或人八拾五錢ノ錢ヲ持テリ此人貳拾八錢ニテ本ヲ買ヒ拾五錢ニテ硯ヲ買フ殘ノ

錢何程

作文科 大根を贈る口上 算盤

脩身科

なさけば人の爲ならずトハ如何ナル事ゾ 且ツ其レニ付テノ事實ヲ語レ

尊長者ニ立禮ノ方法 人ヨリ喧嘩ヲ仕掛ケラレタルトキ如何スルヤ

書取科 池ノ水ハ氷レリ 麻糸ハ大丈夫ナリ 雲ハ天ノワタカ

狐曰フ君首ヲノバシテ何ヲ見ルヤ 砂糖道具

習字科 朝比奈池新田比木佐倉

讀書科

讀方 日本讀本一 ア、大キナルヨリ終マテ

口解 波ノ上ニヨリレフシノ舟ナリマテ

讀方 全 二 廿三丁裏彼ハ何ヤヨリ甚タ美シマテ

口解 始メヨリマサルマテ

体操科 矯正術 悉皆

第三二年期

算術科

(一)金貳拾錢ノ錢ヲ持チ三錢ノ筆二本ヲ買ヒ壹錢ノ半紙ヲ五張買ヘリ殘何程

(二)一俵ノ炭貳拾八錢五厘ナル時ハ百三十二俵ノ代金何程

(三)一反七拾五錢ノ反物ヲ六反買ヒ五圓札ヲ拂フ時ハ何程ノ釣リヲ取リテ可ナルヤ

(四)拾壹圓貳拾錢ニテ米四俵ヲ買ヘリ一俵ノ代金何程

作文科 米二十五俵ノ受取証 茶摘を雇ふ口上

習字科 春暖之候益々御機嫌克

書取科 君ハ吾ガ名ヲ知リ給フカ學校ハ休業シ家毎ニ國旗ヲ立テタリ養生巡查茶筒

脩身科

過ヲ改ムルニ憚ルコト勿ク 右格言ノ意義ヲ問ヒ事實ヲ語ラシム
人ト門戸ヲ出入スル時ノ心得 教場ヲ出入スル心得

讀書科

讀方 日本讀本三 二十丁表ヨコニ又五錢ヨリ亦真鍮ナリ迄
口解 吾カ父ヨリ終マテ

讀書 日本讀本四二十八丁裏此人一日ヨリ汚ク終フルナランマテ

口解 此人僅ニヨリ終マテ

体操科 徒手体操第一 七節ヨリ二十二節マテ

第四年期

算術科

(一)或人大工四人ヲ三十六日間雇ヒ賃金トシテ金三拾三圓拾貳錢ヲ拂ヒ渡シタリ
云フ一人一日ノ賃金何程ナルヤ

(二)商人アリ壹圓ニ付米一斗二升換ノ相場ニテ四斗二升入百二十五俵ヲ買ヒシニ相
場騰貴シテ壹圓ニ米一斗一升二合換ニナレリ因テ買置キシ米ヲ賣拂ヒ其利金ヲ
以テ米ト同シ俵數ノ炭ヲ買ヒタリ炭一俵ノ代金何程

(三)横二十三間縦十八間ノ地面アリ比坪數何程

(四)壹圓三拾六錢五厘 貳拾八錢九厘 八拾六圓五拾錢 九錢三厘

拾圓貳拾錢六厘 八圓三厘 九圓貳錢六厘 拾八錢九厘 八拾圓貳厘

壹圓三拾五錢

作文科 出産を賀する文 車

習字科 御家内益御安全奉賀候

書取科 新陳 代謝 粗暴ハ温和ヲ害スルヲ得ス 偽リハ親切ヲ欺キ難シ

蜜談 電氣燈

讀書科

素讀 日本讀本五 二十九枚ノ裏有名ナル近江ノ湖水ヨリ

口解 僅ニ一晝夜ヨリ終マテ

讀方 同 第六 廿四丁裏程經テヨリ御言ハ空ラサリキ迄

口解 始メヨリ御富ミカ候ヘキマテ

体操科 啞鈴体操第一第一節ヨリ十六節迄

脩身科

遠慮ナクレハ近憂アリ 右格言ノ意義及事實ヲ問フ 書物ノ進メ様

第一年期 新野尋常小學校

算術

(一)父ヨリ饅頭十五クヲ母ヨリ二十クヲ貰ヒ弟二十八クヲ與ヘルキハ已ノ分ハ何ク

(二)山ニ女松の木二十八本男松の木二十九本アリ合テ如何

(三)學校ニ球竿四十五本アリ内二十六本ヲ生徒カ用ヒ居ルキハ球竿掛ニ何本残り居

ルヤ

(四)七万九千六百八圓五拾四錢 (書方)

作文 提灯(實物ヲ示シ功用ヲ作ラシム) 机ノ上ニ硯ト紙ト墨ト筆トヲ置キ、机ノ

上ニ何々ガアルカヲ記サシム

習字 卯辰巳午未申

唱歌 こゝなる門 一曲

書取 牛ガ未ダカヘリマセヌ、かんざし、ちん、へいたい

修身

人ハ正直ニスレハ如何ナル得アルヤ、○其証據ノ話シ、○其格言ハ如何

晚友人杯ト別ル、其ノ言○物ヲモラフキノ言○毎日用ゆる道具ヲハ如何スルヤ○樹

本ヲ折ルハ如何

讀 書

日本讀本初歩ノ二 十九枚表始ヨリ半枚(ヒハ山云々小サキクサ云々ヲ)解セシム
摘書 氷トケテ水トナル、午、羊、大工、ミヤウテウ、ラツバトエンビツチアゲマス

第 二 年 期

算 術

- (一)心算 一年中ニ半紙ヲ二十八枚、左東ヲ五枚、中頭ヲ八枚ツカヒタリ合テ何程
- (二)米三斗二升五合ト四斗三升八合ト八斗八升九合トヲ合テ如何
- (三)金三百六拾五圓ヲ貸セシカ八百八拾八圓ヲ返セリ尙貸金如何
- (四)左ノ買物ヲナシ壹圓金ヲ出スキハ釣錢如何
- 金三拾五錢 石油二升 金拾五錢 足袋一足 金三錢五厘 手拭一筋
- 金拾八錢 傘一本

作文 オソマツダガ、ユワシ少シモラツダカラ、アゲマス 此口上文ヲ記セシム

箒 實物ヲ示シテ功用ト作リ方ヲ綴ラシム

- 習字 内田 板澤 加茂 西方 横地 川野
- 書取 爪ヲカハン 紙ヲ商フ店 養生 道具 着物 會社 飲食
- 唱歌 春のやよひ 一曲
- 体操 矯正術七、八、九、十、ノ四節

修 身

人ニ物ヲ借リタルキハ如何○人ノ世話ニナレハ如何○恩ヲ受クレハ如何○恩ヲ返シ
タ事實○其格言

所近の人に道で逢ひし時は○友達に物をやる時の言○貰ひし時の言○客來れば如何
する○客のはき物はどふするか

讀 書

日本讀本二 二十五枚裏西京ヨリ終ル(西京以下解)

摘書 洋服 約束 朝夕 波風 南の家は甚廣し 雞頭の花 野菜の根

第三年期

算 術

(一)心算 一ケ五厘ノ雞卵六粒、一ケ六厘ノ鶯卵四粒ヲ買フ此代金合テ如何

(二)一日ノ賃錢拾八錢五厘ノ雇人ヲ百二十六日間雇フ此賃錢合テ如何

(三)米四斗二升俵ヲ二俵ツ、買ヒ置キシカ食シ來テ己ニ米櫃ニ六升六合ヲ餘スノミ

トナレリ食セシ米何程

(四)五人仲間ニテ堀ヲカヘ鮎三十五尾鱒四十五尾ヲ得タリ一人ノ分ケ分幾何

作文 田三反歩を本月ノ末マテに打つてくれと頼む文

竹ト紙ト糊ヲ示シ何ナリトモ製シ得ル物ノ題ヲ考ヘ其作法功用ヲ綴ラシム

習字 鹿末之新茶只今使を以て差上申候

書取 雀稻穂ヲ食フ、支度、眞鍮、後飯、横濱、商賣、繁昌、覺悟

唱歌 玉の宮居 一曲

体操 徒手体操第十節ヨリ十五節マテ

修身

人ノ物ヲ毀ツルハ如何○モシ疎漏ヲナシテ人ニ叱ラレタラバ如何○惡キヲナシテ改メサルルハ如何○過ヲ改ムヘキ其格言ヲ問フ○此事實

客の話を聞く時の心得○土産を出す時の心得○手拭風呂敷のたゝみ方○衣物を脱ぎ
時は

讀書

日本讀本四 三十枚裏大風ヨリ落シケリ迄(既ニノ以下解)

摘書 景色、到着、職業、臺所、憐れなる隣家の親族、老人ヲ罵リ馬鹿ニシテ笑ハル、ナ

第四年期

算術科

(一)速算 米十二石五斗四升五合、三石四斗五升二合、三石七升五合、七石二斗五升六合、三石九斗二升二合、ノ和及ヒ金拾貳圓拾貳錢五厘、三圓八拾貳錢、七圓拾五錢五厘、三圓九拾貳錢五厘、八圓拾貳錢五厘ノ和ヲ問フ

(二)砂糖六百七十二斤の代金八拾七圓三拾六錢也一斤の代金を問ふ

(三)職人あり毎日貳拾五錢の賃錢を取り毎日拾八錢五厘の入費を出す其殘余金ヲ貯へて已ニ貳拾三圓七拾貳錢五厘ニ至る時は其日數幾何

(四)酒一樽三斗五升入二十七樽一樽五斗入三十四樽を仕入しか已に六石七斗五升ヲ餘すのみとなれり賣りたる石數如何

作文科 日用文 種粉を送る文 (他ヨリ取寄セテ送ルル其石商ヲ記入スルコト)

漢字交文 算盤 (功用ヲ記シ商家ニテ何々ニ必用ナル農家ニテ何々ニ用ユル又他ニ用アル等ヲナス)

習字科 兼て申置候尤御都合ふりては半金よても宜敷御座候

書取科 兄弟和睦、金銀珠玉、亂暴、徵兵、檢査、哲思案、電信線

唱歌科 薰りに知らる、一曲

体操科 球竿 第三十三節ヨリ卅九節迄 啞鈴 三十四節ヨリ三十八節迄

讀書科

日本讀本六 七枚のウラ九行目巢ハより受ケンカ爲ナリ迄(春 以下解)

摘書 翌夜、緋、功勞ヲ顯ハシ、記臆ニ殘ス、嵐も霞む、殘金之儀ハ郵便局に預け置き可申候 鐵道開通以來堀之内の繁昌は非常也

脩身科

作法 家内を清潔よし庭園を掃除すること 來客の節應接の一般を問ふ

格言 積善の家には必ず餘慶ありといふ格言に付て

實行 善を行へ如何○惡事を行へは如何○汝等は善を行ひしか○善を行へは如何ス
る徳を生ずる○其格言○其實行

第一年期 川上尋常小學校

修身科

第一問 正直ノ格言事實 第二問 キモノノコト

讀書科

第一問 キミモブランコニノリタマヘオモシロキコトナリコノ山ノ上ニ

コンビラサマガアル (應用問)

第二問 日本讀本初步二ノ卷十三枚表初ヨリ六行(記憶問)

書取科 小サキ木五本アリ わたくしはさうちをいたします

作文科 なす(自作)ウマト牛トハ オホキ、、、犬トチコトハ、、、シ(填充文)

習字科 勺合升斗石

算術科

(一)實物七十六

(二)四万六千七百八十五エン

(三)父ヨリ十八本母ヨリ十三本兄ヨリ九本姉ヨリ七本ノ筆ヲモヒタリトシテミナデ
イクラニナルカ

(四)ミカン十七ケト十六ケトアリテコノウチねよしニ八ケねまつニ十一ケクレルア
トイクラナリヤ

唱歌科 大和撫子

第一年期

修身科

第一問 忍耐ノ格言事實 第二問 道ヲアルク心得

讀書科

第一問 病氣アレバ樂シキコトヲシ好ムトコロニ往クコトモナラズ故ニヨク養生ス
ベシ 君ノモチタル厭ハ甚タウツクシク其ノ系ハ丈夫ナリ(應用問)

第二問 日本讀本二ノ卷二十三枚裏第七行ヨリ五行(記憶問)

書取科 君ハ未ダ今朝ノ新聞ヲ續マヌカ 此ノ高キ棟ヲ見ヨ

作文科 まつだけヲオクル口上書(自作) モモノ花ハウス赤シ モモノミハアヤシ

モモノミハ食モツトナル(連文)

習字科 日坂 掛川 袋井 森町 見附 中泉

算術科

(一)學校ヘクルコドモ丹野ニ二十六人古谷ニ十八人八川上ニ四十六人赤土ニ三十六人

柵草ニ二十七人猿渡目木ニ十六人アリトセバ合セテ幾人カ

(二)一太郎まめヲツクリテ七斗五升ヲトリソノウチ三斗四升七合ヲウリテソノアト

ヲ食ヒタリト云フ食ヒタルまめノ升カズヲキク

(三)かみくずかひアリハマメノ日ニ三貫六百五十目ヲカヒツキノ日ニ四貫七百目ヲ

カヒ三日目ニマタ一荷ヲカヒシニ合セテ十五貫目トナレリサレバ三日目ニカヒ

タルかみくずイク貫目ナリシカ

(四)三、四、五、六、七、八、十二ノ和 暗算

唱歌科 君か代 一

体操科 矯正術 不殘

第三年期

修身科

第一問 親切ノ格言事實 第二問 ツキアヒノ心得

讀書科

第一問 寒サツヨキ時モ過キテ春季皇靈祭ニ近クナレリ 稻ノ穂ヲ浸ス支度ヲセヨ

蜂ハ蜜ヲ貯ヘ蟻ハ米麥ナドヲハコビテ怠ルコトナシ

遊惰ニシテ働カザル人ハ小キ虫ニモ劣ルト曰フベシ(應用問)

第二問 日本讀本第四ノ卷三十三枚裏六行ヨリ次丁三行迄(記憶問)

毒取科 私ハ昨年袴下洋服ノ裁縫ヲ習ヒ終ハリキ 親類ハ勿論

作文科 七夜ノ重ノ内ヲ贈ル文(自作) 蕨 山野ニ生ズ 若キ芽ヲ煮テ食フ

根ヲ粉ニス 蕨粉 搗キテ餅トナス 蕨餅 蕨ノクキヲ乾シテ繩

ニ作ル 蕨繩 (連文)

習字科 昨夕は罷出種了御馳走にわづかり有難く御禮申上候

算術科

(一)一樽八貫三百匁入ノ物七十五樽アリスベテ幾貫匁ナリヤ

(二)米二万三千四百五十七石ヲ一人ニ七石ツ、與ヘナバ其ノ人数ハ幾人トナルカ

(三)一日一人ノ賃金貳拾五錢ノ大工七人ヲ三十三日ト一日一人ノ賃金貳拾三錢ノ左

官三人ヲ四十二日分雇フトキハ總テノ賃金ハ何程カ

(四)暗算(7+4+5)3-16=?

唱歌科 紀元節一

体操科 徒手演習二法第四節ヨリ十九節迄

第四年期

修身科

第一問 愛國ノ格言事實 第二問 ヒトリヲツ、シム心得

讀書科

第一問 勝原氏代代天下ノ政ヲ取リ一門富貴室昌ヲ極メ我が儘漸増長セシ故宇多天

皇菅原道真ヲ用ヒテ其勢ヲ滅ゼント謀リ給フ 古ハ東京ヨリ大坂ニ

至ルニハ十餘日ヲ費シタルヲ今ハ瀛車ニテ一晝夜ニ達スヘシ愉快ニシテ且

便利ナラスヤ(應用問)

第二問 日本讀本六ノ卷二十七枚表人身ヨリ裏四行迄(記憶問)

書取科 蝨ガ絹糸ヲ吐ク 遂ニ頭痛ヲ感ス 療治看病ノ功ナク

作文科 床上ク祝ヒニ人ヲ招ク文(自作) 齒 種類甚ダ多シ 木ニ生ズ

土ニ生ズ 苔ノ上ニ生ズ 四季共ニ生ズ 秋季殊ニ多シ 松茸
椎茸 ヒメシ等 乾カス 炙ル 煮ル 味ヨシ 香ヨシ 消化悪シ
多食スレバ害アリ (連文)

習字科 御間に合候品は御用立可申間御遠慮なへ御申越相成へく候

算 術 科

(一)六十八人等シク出金シテ總金壹万壹千九百圓ヲ得メリト云フ一人ノ出金何程ナ

リシカ

(二)米三斗五升八八十四俵ト四斗二升八五十六俵トヲ解キテ二斗八升入ノ俵ニ拵へ

ナバ幾俵トナルカ

(三)或人毎日平均十二里ツ、歩ミア西ニ行クコト三十六日ソレヨリ東ニ戻ルコト五十二里二十五町ナルトキハ今ハ出立ノ地ヨリ幾里何レノ方ニアルカ

(四)二尺五寸、一丈五尺三寸、三尺八寸、一丈七寸、五丈六尺、九丈一尺二寸、四丈三尺

四寸、八丈五尺二寸、五丈三寸、十八丈五尺五寸、八丈六尺七寸、十三丈二尺八寸ノ和(速算)

唱歌科 金剛石

体操科 啞鈴一演習第九ヨリ二十四節迄

第一年期 平田尋常小學校

算 術

(一)拍手ノ音ヲ數ヘシム(總數十五)

(二)廿五人ノ生徒のうち女生八人ありといふときは男兒何人か (点圈記号ヲ用ルコト隨意)

(三)人の齒は三十二枚あるものなり二人の齒の數合せて何ほど(但同上)

(四)數字の書き方 甲 四百六十七 乙 5

作文 ふぐノ成立功用ヲ記サシム 茶碗ニ水ヲ入レテ視シソノ見ル様ヲ記セシム
書取 本ヲヨメバチエガツク 山川には大きなるあり

習字 日本のたゞ

脩 身

貪り食スルハ身ニ害アリ 右格言ノ解釋及事實 朝起ヨリ學校ニ至ル迄ノ順序

讀 書

初歩ニ 十七枚裏大キナルヲヨリヨキ人ナリ迄 解同ケフハヨリヨキ人ナリマテ

綴文 ミヤウニチハ キウツツデアリマス こんには三げつ二十三日にちなり

唱歌 民 草

第二年期

算 術

(一)七十三、六十四、三十五、二十七の和

(二)桑苗五百三十四本の内二百六十五本賣るときは残り何本なるや

(三)平田學校生徒の數は一年生五十六人二年生五十三人三年生六十人四年と温習

はとも二二十八人なり人數すへて何ほど

(四)籃中ニ魚三十八尾ありうち八尾ハ鯛九尾ハ鱈七尾ハ鱈にして其他は脊黒鱈なり

といふその數何尾

作文 ちらし鮎をおくる口上書 靴

書取 松杉は材木となる梅櫻の花小けれど美し 口ハ日ヒ目ハ見耳ハ聞ク

日の東より出て、西に入る

習字 平民農商工

修 身

人一タビニシテ之ヲヨクスレバ己之ヲ百ヒタス 右格言ノ解釋及事實

他家へ行きなるときの注意 來客あるとよきの注意

讀 書

日本讀本ニ 三十枚裏一日水無クバイカンヨリ三十一枚表イカニシテツカレテヤス

解同始メヨリ洗ナヘキ水無シ迄

綴文 姉ハ梯ノ木ニ梯ヲカケタリ 柿梨などを水菓子と曰ふ其味甘し

唱歌 歌 舞

体操 矯正術ノ一節三節五節七節九節

第三年期

算 術

(一) 農夫一日に二百十六坪の野の草を刈る十六日の間より幾許の野の草を刈り得るヤ

(二) 車一輛ニ鹽八俵積むとして一千八百七十二俵ハ幾輛の車に積むべきヤ

(三) 米一升の代金六錢七厘のとき四斗二升入十五俵の代金は何程に當るヤ

(四) (甲) 暗算 密柑一千六百個あり六人の小兒ニ平當ニ分與せしに三個余れりを云ふ

一人ニ付何程與へたるか

(乙) 速算 金七拾八圓、九拾五圓、六拾五圓、三拾七圓、四拾五圓、貳拾六圓、三拾三圓の和より貳百圓引く

作文 年回入人を括く口上 魚

書取 山田松太郎とお梅とは親切なる兄弟なり 極めて美麗廣大なる煉化造の別荘

あり

習字 粗飯差上度夕方御光來

修身

父母召す時は速かに往くべし父母疾あらば傍に待すべし 右格言ノ解釋及事實

家の出入の注意 教場にての注意

讀書

日本讀本四 三十枚表コレハ田舎ノ人ガヨリ勉強ヲ終リテ遊ブホド樂シキコトハナシ迄 解同シク

綴文 春季皇靈祭は春のひかんの中日なり 此の日は晝夜の長さ全く同じ

築山の邊は多くの草木今を盛りと咲き乱れ其景色最も美し

唱歌 織成ス錦

体操 徒手体操十一節ヨリ二十節

第四年期

算術

(一) 一時間に十一里廿五町十八間を走る流車ハ八時間ニ何里を行くべきや

(二) 十二歳の少年の父の年齢を問ふ父答て曰く汝の年齢を十五倍し尙三十年を加へ之を七除して八を加へたるもの我年齢なりといへり答問ふこの父の年齢何程

(三) 木綿一反二丈八尺の代金八拾四錢なりと云とき仕立の都合により二丈一尺買ひ求めたり代金何程拂ひてよろしきや

(四) (甲) 暗算 或人拾二錢の買物をなし天保錢のみにて勘定せり然るときは父の難

何程にして釣錢若干

(乙) 速算 米八石二斗五升、六石六斗四升、十三石二斗三升、七石二斗六升、九石五斗一升、十石二斗四升、六石八升の内三十七石五斗六升引く

作文 演説傍聴に誘ふ文 預り金証券

書取 日本ノ前ハ太平洋ニシテ一髪ノ山影モナシ

生卵ノ白身ハ水品ノ如クスキ透リテ黄身ヲ包メリ

習字 不相變無事乍憚御安心

脩身

怨ニ報スルニ徳ヲ以テス 右格言ノ解釋及事實

書狀ノ進收 來客あるときハ注意

讀書

日本讀本六 四十一枚表悲ヒカナヨリアアカヒナキ物ハ後悔ナリ迄 解同ヲ

綴文 東海道ニ箱根山アリ 木曾街道ニ碓氷峠アリ共ニ峻岨ノ山ニシテ百尺ノ絶壁

ニハ岩石頭上ニ崩ル、ガ如ク千尋ノ谷底ニハ滔々タル水聲琴ノ響クガ如シ

唱歌 舟遊

体操 啞鈴十一節ヨリ二十節迄

第一年期 横地尋常小學校

算術

(一)五ヲ算用數字ニ改書スルヲ求ム 答 5

(二)筆が三錢墨が四錢紙が貳錢ニテ買たりみなで幾錢なるや 答九錢

(三)籠に魚五十匹あり其内を二十六匹猫に取られたり残り幾匹や 答二十四匹

(四)雞の雌三羽あり一羽にて卵十二うむときは幾つや 答三十六個

作文 風鈴 花

書取シカ さる バントウガ井マス かるたをとりまます

習字 シケンよし

讀方

タタノコ ほん サカヅキ こま ダイクハイヘチタテル わたくしにもたいり

やくよめます ホウイウカラテガミガキマシタ 高キ山アリ

口解 わたくしにもたいりやくよめます ホウイウカラテガミガキマシタ

修身

格言 虚言ヲ誠ムル格言ヲ問フ 西諺云人ヲ欺クモノハ人ニ欺カル

事實 人ハ朋友ヲエラブニツトメテ心ヲトム可キナリ 友ヲ迂曾ノ話シ如何

管寧友人ト同席ニテ讀書セシ話

作法 目上ノ人ト一所ニ食事スルルノ心得 客ト共ニ食スルル座ヲ立ツルノ心得

學校ヨリ歸宅セシ時ノ心得

第二年期

算術

(一)暗算 $8+4-3=7$

(二)童兒學校に行くと二個の道あり一は十八町あり一は二十三町あり朝昇校の時は近路を歩き午後退校の時は遠路を歸れりといふ合して幾町なるや 答四十一町

(三)小供のり父より百七十八個の栗を貰ひ其中をば弟に二十七個妹に三十一個を與ゑたりといふ残り幾個なりや 答百二十個

(四)百二十間此糸を以て麻を揚しに麻切れて遙に飛去たり手元は残りし糸九十間ありしといふ失し糸は長さ幾間なるや 答三十間

書取 目ハ見エテモ字ヲシラヌ人ヲ 綿カ酒ナル可シ

作文 鷹 草餅を贈る口上

習字 春花草艸菊

讀方

讀本卷之一 二十丁右此ノ女ノ子ハ母ヨリヌヒモノヲナラフ——一時ツツナテヒ

ナト迄

口解 此子ハ毎日ヘンキヨウセリ——ナラヒナ迄

同 卷之二 彼レハ何カ彼獸ハ虎ナリ——肉食ノ獸ト曰迄

口解 虎ハカツヨキコト他ノ獸ニマサルヨリ終迄

修身

交ル友ヲ見テ其人品ヲ知ル其實如何 或人馬ヲ買ハントシテ試験セシ話

格言 毛利元就死ニ臨ミ兄弟此和スヘキヲ誠ム悌道ノ格言如何

西諺ニ云兄弟ハ指ノ如シ長ク離ル可ラス

作法 家の中を歩く時の心得 品物を持ち家中を歩くと時ハ心得

第三年期

算術

(1) 心算 $12+8+4-14=2=5$

(2) 蜜柑千百〇七個あり之を九乃箱に入れんとす幾個宛を入れて可なるや

答百二十三個

(3) 小供あり七人連にて池に釣に行き一人にて鮒二十七尾宛を釣り得たりといふ然る時は總して幾尾乃鮒を釣り得しや

答百八十九尾

(4) 水車あり毎日米二十三俵宛搗といふ今千四百九十五俵を搗には幾日に終るや

答六十五日

作文 膳碗を借る女 蜘蛛

書取 虹ヲ見給へ 鹽ハ味噌ノ味ヲ付ケ 花ノ汁ヲ吸ヒ

習字 草餅一重忝

讀 方

日本讀本卷之三 十六丁母上ハコノ暑キ日ニ——出ルナラン迄

口解 サソ暑カラソ——風アラソ迄

同 卷之四 廿丁左衣服ハ暖ナリトモ垢付キ汚ルレバ養生ニ害アリ故ニ衣服ハ——

亦養生ニ害アリ迄

口解 故ニ衣服ハ暖ニシテ——カヲ増スコト能ハス迄

修身

事實 西諺ニ勤勉ハ忍耐ニ成ルトアリ忍耐ノ事實ヲ問フ 小野道風蛙乃飛を見し話

節儉ノ格言如何 我富は我産業ハ大なるに非ず我需用の少きにあり

作法 客人と共に食事する時乃心得 食事する時の心得 食物を人に出す時の心得

第四年期

算 術

(1) 暗算 $3 \times 2 + 6 + 8 = 22$ 十個

(2) 童子基石を弄ひ戯れに問て曰黑白合して三百六十一個あり今之を廿七個宛算多

去る時は残り幾個なるや 答十個

(三)茄子十五個の代金貳錢四厘なり今三百五十個の代幾何あるや 答五拾六錢

(四)平常晨よ起る時間より毎日一時半宛早よ起まて勉強する時は一年間乃チ三百六十五日には幾何時間を得るや 答五百四十七時間半

作文 田植乃手傳を頼む文 蟻

書取 心常ニ愉快ナリ 庭ニ出テ散步スルコト半時

習字 摘草に御誘ひ被下難有

讀方

日本讀本六卷 十一丁栗太郎ガ母ヲ思フ涙イマタ——父ニ願ヒキ迄

口解 コノ町ヨリ終リ迄

讀本五卷 三十六丁平家ハ源氏ノ爲ニヨリ止リヌ迄

口解 コノ城後ロハヨリ終リ迄

修身

周禮程普ニ謙遜せし話し 廉潔之格言 不義にして富且貴きは浮雲の如し

作法 客の給仕をする時の心得 客來の時主人の心得 客の主人と談話中給仕の心得

第一年期 六郷尋常小學校

修身科

事實 問 此人は誰てあります 答 小野道風であります

問 此道風何とてあります 答 雨の降る中に立て蛙を見て居ます

問 其蛙は何をするのであります 答 柳の枝に居る小虫を取らんととしてと

び付くのであります

問 取る事が出来ましたか 答 幾度もあちましたかたゆまず勉めて

遂にとびつきて取る事が出来ました

問 道風は之を見て何と思ひました 答 虫でさう斯様に勉強すれば出来ぬ

ことではないことだと思ひまして

問 道風は全体此処へ出て来たのはどういふわけであります 答 少年の時
字を習ひましたのに思ふ様に出来ませんからいやになつて遊びに出たの
であります

問 道風はうれより如何いたしました 答 雪のふる朝も早起し雨の降る日
も欠席せずに先生の所へ行きました

問 道風は後に如何なる人になりました 答 名高い手書きとなりました
問 皆さんは此話に付て何と思ひます 答 朝早起しておさらいをしました
り學校へいつて精出してみんなに負けられない様にしようと思ひます

格言 今あなたの話に付て格言を言ひなされ へたも勉めて習ひなば怠る上手に申
さるべし

作文 記事文二題 机 狐

習字科 行書五字 廿四年三月

讀 書 科

素讀 文部省讀書入門第三十五課コードモハガクカウノニハニテイマサウレンヲナス
ガクモントウンドウトハダイシナモノナリコレヲオコタルトキハヨイヒトニ
ナラレヌモノナリ

同尋常小學讀本一 二十三課太郎い直に付けて来て二郎を助けさまぐにな
ぐさめました 二郎はなみだをだしなから兄さんろんなにいたくは有りませ
ぬよ此位のことでは泣きませぬといひました

口解 讀書入門イマサウレンヲナスガクモントウンドウトハダイシナモノナリ

同讀本一太郎は直に付けて来て二郎を助けさまぐになぐさめました
書取 私どもは子供であります 日本東京米茶柿ヲ取ル

算 術 科

- (一) 加法 實物口問口答 赤玉十六ト緑玉九ツト黄玉五ツデハ幾何ゾ 答三十
- (二) 減法 算盤廿二面ノ内デ十九面ツカウト云フ残り何面 答三面
- (三) 加法 駿河半紙五枚ト美濃紙五枚ト西半紙九枚デハ何枚トナルヤ 答十九枚
- (四) 計方 指數器ニテ四十一ヨリ五十五マデノ計方

第二一年期

修身科

事實 問 此繪には何が書いてあります 答 老人ガ小兒の新聞を買つて居る所て
あます

問 此小兒はなぜ新聞を賣るであります 答 家が貧乏で父が早く死で母と
一所にくらすからであります

問 此兒は新聞を賣つて何を買ふであります 答 紙たの筆を買てあります

問 此新聞賣は年か幾つてあります 答 十三てあります

問 此子はなぜ紙たの筆がいるてあります 答 學校へ行からいるのであり
ます

問 此子は新聞を賣つたり學校へ行つたりするには時間をどうしました

答 毎朝早く起きて新聞を買ひこみまして朝飯をしまつた後に二時間新聞を
賣て夫がら學校へ行くのであります

問 老人と何の話をしましたか 答 早や九時に近寄りましたから残の新聞
を賣て學校へ行かなければなりません學校へ行くのか遅くなると黒点を
付けられますと話しました

問 此老人は此話を聞いてどうしましたか 答 大層感心してすつかり新聞を
買つてやりました

問 此子の身なりはどうでありますか 答 着物はわちこち破れて足ははだし
てあります

問 此子はした読みさらひなどはいつしました 答 夜いたしました

格言 今の諸お付格言を語れ 幼なき時學ばずば老いて悔ゆとも及ぶまし

日常作法 問 汝等途上にて教師其他長上に逢ひし時は如何なすや但實行セシム

答 途上にて教師其他長上に逢ふ時は其行過ぐべき路の傍にさけ帽子を

脱して手を膝にし足首を揃へておじきをなし其人行過ぎて後靜に歩

んで行きます

讀 書 科

素讀

文部省尋常小學讀本二第十一課町のぼづれよ來りし時一疋のはなれ馬ありて

あまたの人さわぎたち追ひ廻はして居たり小太郎も恐れしか妹はことに恐れ

て泣き出せり小太郎は妹をなぐさめ或る門のかたはらにさけさせあのれの身

よて妹をおほひ居たり

同三第二十五課招魂社は吾等の國を守る爲に命をれとし一人を祭れるやし

るなり故に吾等招魂社にやめる時は信實に其恩を謝すべしつぎに招魂祭の歌
としるす

口解

尋常讀本二小太郎の妹をなぐさめ或る門のあたはらよさけさせられたの身お
て妹をおほひ居たり

同三 故に吾等招魂社にやめる時は信實に其恩を謝すべしつぎに招魂祭の歌
をしるす

書取 げに勇まゝきは兵士なり 授業中は皆靜にすべし

作文科 記事 鯨 口上櫻花を贈る口上

習字科 行書五字 春艸花衣時

算 術 科

(1) 暗算 $4+6+7+5+8+5-20$ 答五個

(2) 加法 或人三ヶ所に地所を持てり第一は七百六十五坪第二は九百四十坪第三は

千二百五十八坪なり総計幾何坪なるや 答二千九百六十三坪

(三)減法 或人杉苗五千四百七十八本を或山に植へしに二千四百六十九本は枯れたりと成長せし杉苗幾本なるや 答三千九本

(四)加減金五圓四拾五錢の内壹圓三拾八錢をて衣服を買ひ貳圓五拾五錢にて書物を買ひたり殘金何程 答壹圓五拾貳錢

体操科 矯正術十五節

隊列 番号 右へ準へ 排列法 閉列法 解列法

第三年期

修身科

日常作法 掃除心得十五ヶ條中十要点ヲ擧ゲヨ

答例 掃除番は授業三十分前に出校します 出校せは許を受けて雨戸をあけます

教場の雨戸をあけるの許しなきときは庭の掃除をします

夫から水を汲みて置ます 教場の机腰掛などと拭いて置きます

お晝の時間に近寄りましたらば教員其他生徒の呑む所のお茶を沸かします

晝飯になつたならばろれく土瓶を持って行きましてこぼさぬ様に生徒につ

いでやります 茶碗や土瓶はこぼさぬ様に氣を付けます

授業終りましたらば各受持つに各教場を掃除します

掃除は勉めて清潔にします

事實 汝等既に教へられし話にてよく父母の戒めを守りし人の事實をなせ

答例 老農死に臨みて子に遺言し子よく其教を守りて大なる幸ひを得し話

格言 今汝の話せし事實に付相當の格言を語れ

答例 両親其他長上の戒は能く守るべし

作文科 記事 羊 私用 散歩誘引之手紙

習字科 行書中字十字 山城大和河内和泉伊賀

讀書科

素讀

文部省尋常小學讀本四第十二課世の中には事を爲さんとして少しのさばりにあふ時たちまち私にはとても出来ませぬと云ふ者あり此等の鳥もはじめ嘴にて貝を破ること能はざりしときとても破れぬとて見捨てしならばうまき肉を食ふことはかなはざりしならん

全五主人は如何にして汝はかく巧になりしぞと彼乃少年に問ひしに私は勉強せばあの球のつき得ぬとはあるまじと思ひ先日家に歸りし後庭に出て、木の枝に棘をつるし幾度となくつき試み今朝も家を出る前に一時間も試みたりと答へたり

口解

尋常讀本四此等の鳥もはじめ嘴にて貝を破ること能はざりしときとても破れぬとて見捨しならばうまき肉を食ふことはかなはざりしならん
全五先日家に歸りし後庭に出て、木の枝に棘をつるし幾度となくつき試み今朝も家を出る前に一時間も試みたりと答へたり

書取 人間萬事寒翁が馬常に深切の朋友と遊ぶべし

算・術 科

(一)暗算 $9+2+5+4+7+8+3+6+10 \times 9 = 66$ 答六個

(二)乘法 貧民一千六百五十四人へ一人に付米七升三合五勺宛與ふる時は石數幾何
答百二十一石五斗六升九合

(三)除法 爰に六百四十八字の手本あり之を一週毎に十八字宛習ふ時は幾週間に一
て組るや 答三十六週間

(四)生徒あり一年即三百六十五日の内日曜日五十二日を休業し其余は毎日六枚の書を讀みたりと云ふ総べて幾枚となるや 答一千八百七十八枚

体操科 徒手第二 第九節ヨリ二十四節終リマテ十六節

隊列 右へ準へ 排列法 閉列法 分レ

唱歌科 軍歌朝霧はる、野邊見渡せば向ひの岡につらなる岩瀬千萬か籠れる敵は

第四年期

修身科

作法 茶進め様 第一容儀を正し茶碗を盆或は臺に載せ静に持ち出でて、客の前に出し客茶碗を取りし時は臺を持ち取らざる時は其まゝ置き一禮して退き歸る

鹿末のお茶でございます

事實 汝等既に教へられし勇氣の話をなせ

答例 日本武尊熊襲の梟帥を討ち亡し武勇を顯はせし話

格言 今汝の話せし事實に付相當の格言を語れ 答例 勇者不懼

讀書科

素讀

文部省尋常小學讀本六第二十六課攝津の國湊川には湊川神社といへる大社ありて楠正成を祭れりかつて權中納言徳川光國正成の討死せし所を尋ね出し其処に石碑を建て嗚呼忠臣楠子之墓と云ふ八字をほりつけられたり

全七鎌倉は日本全國を支配するよ不便の場処なれば其勢も徳川氏任に盛ならざりしか家康乃江戸城を築きしより其子孫世世天下の政事を行ひてほとんど二百六十余年の間人民皆太平を樂みしは江戸と云へるよき場所に居て政事を行ひたる故ならん

口解

尋常讀本六かつて權中納言徳川光國正成の討死せし処を尋ね出し其処に石碑を建て嗚呼忠臣楠子之墓と云ふ八字をほりつけられたり

全七ほとんど二百六十余年の間人民皆太平を樂みしは江戸と云へるよき場所に居て政事を行ひたる故ならん

書取 正行は父の遺訓を守り忠勤比類なかりしは維新の後

作文科 記事 電信 私用 山林の入札を報知する手紙

習字科 行草交り十字 御線台御同遊相願度候

算術科

(一)暗算 $25 \times 5 = 125 = 4 \parallel$ 答二十五個

(二)速算 田地十五町六反七畝十五步 三町〇八畝二十四步 七町〇〇十六步

廿町七反九畝十三步 三町一反二畝〇四歩の和幾何答四十九町六反八畝十二歩

(三)時數乘法 生徒あり紙數十六枚の書籍を寫すに一枚に付二十分三十秒の時間を

費すと云然る時は総時間幾何 答五時二十八分

(四)應用 帽子二十五個の價う手袋七十五双の價に等し而して手袋一双の價貳拾五

錢ありと云帽子一個の價幾何 答七拾五錢

体操科 球竿第十三節ヨリ二十八節迄十六節

隊列 右へ準 排列法 閉列法 解レ

唱歌科 三千余万ノ歌 三千余万兄に弟どもよ守りに守れ君が代を

第一年期 河城尋常小學校

作文科 フデ 假名正体ヲ用フ サクラノ花 全草体ヲ用フ

習字科 あしたよる 火大口日月

算術課

(一)六千四百二十八ヲ横書セヨ

(二)〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇之レヲ數ヘヨ

(三) 425367 (三)四百二十五ト三百六十七ト二百三十六トヲ合セヨ

(四)暗算 或ル子供父ニ八ツノ蜜柑ト母ニ七ツノ蜜柑ヲ貰シニ此内十一ノ蜜柑ヲタ

ベタリ依テ残り何程

讀方科

讀書入門第十八課ノ素讀及ヒ大意

讀本ノ一第十八課こゝにヨリ七行目のなされ迄ノ素讀及ヒ大意

書取科 アキユヱ井 けふこてひ 大石手父母耳目色又竹

修身科

孝行 孝行トハ如何ナル事ヲ云ヘマスカ 又ヨク孝行ヲシタ子ノ話ヲ聞カセ
作法 食事ノ心得 食畢初メヨリ食物ノ終リ迄ノ注意

第二二期

修身科

孝ノ道一ニシテ足ラス若シ家貧クシテ親病ムキハ如何ニシテ孝ヲ盡スヤ
兄弟和睦シク過キンニハ如何ナル心得シテ可ナルヤ

讀書科

尋常小學讀本卷二 三十一枚ノ裏私ハ毎朝早ムヨリ卅二枚ノ表いたします迄ヲ試ム
全 卷ノ三 第十七課始ヨリ全枚聞けたり迄ヲ試ム

算術科

(一) 金拾五錢 貳拾三錢 五拾八錢 三拾六錢 壹圓三拾五錢 三圓貳拾七錢

以上加法速算

(二) 松二百六十九本杉五百八十三本檜三百廿五本ヲ植タル林アリ此林ノ總木數何程

(三) 或人炭二百八十五貫目ヲ拵ヘ置キ一番茶ニ百三十八貫目二番茶ニ八十五貫目ヲ
費シタリト云フ然ルキハ殘ル炭ノ口方何程

(四) 玄米三石二斗五升ヲ搗キ白米二石八斗三升ヲ得タリト云フ然ルキハ搗減米何程
作文科 借りたる品をかへす口上書 馬 簡易ナル漢字交リ文

習字科 収入支出總高現金印紙 右行書ニテ白紙一枚二行ニ書セシム
書取 約束 長針 魚肉 小舟 新聞 米 飯 水田 吟味 荷物 金錢
体操科 矯正術第一節ヨリ七節迄ヲ試ム

第三二期

修身

仁慈 右ニ付キ格言及ヒ事實ノ例ヲ問フ

招持セラシキノ心得 右ニ付キ問ハントスル所ノ主点

家ニ到リタルキハ如何 坐ニツクキハ如何 歸宅スルキハ如何

讀書

讀本卷四第十二課世乃中には方終り迄讀方 内ニ付始メヨリ云ふ者アリ迄講義

讀本卷五第六課今此梯が終り迄讀方 内ニ付其後正雄は方終り迄講義

書取 學問 小兒 先生 食物 上衣 失敬 不自由 子供等 様子

算術

(一)或人米五百七十五俵を一俵ニ付金貳圓五拾五錢ツ、にて買ひ込みたり此總代金

高何程

(二)歳十五俵を金壹圓ニ付二十五貫替よて買ひ此代金を拂はんとす此代金何程

但一俵八貫目入

(三)或人呉服屋ニ行キ一尺四錢五厘切の布八尺と一尺八錢切ノ絹布七尺と一丁三錢

五厘の墨二丁を買ひ壹圓乃札よて勘定するキハ如何

(四)加法速算 金拾貳圓貳拾五錢八厘 金壹圓拾錢五厘 金三圓七拾八錢九厘

金貳圓拾八錢七厘 金拾五錢三厘 金三拾九錢八厘 金壹圓七拾五錢七厘

金拾圓〇三錢三厘

作文 傘 孟宋之笥を贈る文

習字 行書十字 東京 大坂 神戸 秋田 福井

体操 徒手第一節ヨリ第十節迄

第四年期

讀書科

尋常小學讀本卷ノ六 三十一枚初行象はより其怨を報ゆるとあるものありなご
同卷ノ七 二十三枚空裏氣は亦たす力を持てりより十二課終りまで 右素讀及講義
書取 記憶 動植物 印刷 穀物 空氣には膨脹する性あり

堪忍は無事長久のもとの

作文科 奉公人の周旋を頼む文 登

修身科

節儉と吝嗇とは如何ナル相違ありや

家僕に對する心得如何

算術科

(一)加法速算 田反別三反五畝廿三步 畑反別四反四畝十八步 山林反別一丁三反

廿六步 宅地反別一反四畝八步 原野反別五反五畝十八步 右總計反別何程

(二)米五斗二升入十九俵ト端米四斗三升七合有壹圓ニ一斗九升替ニシテ代金何程

(三)農家七町五反三畝二步ノ畑ヲ所持セリ屋敷地ハ是ノ三十二分ノ一ナリト云フ因

テ屋敷地反別ヲ問フ

(四)一將三百八十四人乃兵を率ひて敵營を襲ひ五千七百六拾圓の金を分捕せり因て

是を総兵五分與スト云フ然ルキハ一人の所得幾何圓なるや

習字科 御地生系相塲昨今如何ニ相成候哉御問合申候

体操科 啞鈴体操第一演習第廿節ヨリ三十節迄ヲ試ム

第一年期 西方尋常小學校

讀書

尋常讀本一 二十九課初ヨリ五行迄素讀口解共

摘書 雉 ほめけ舟 刀を持ちて グランコ つくゑ キレイノハナデス 山へゆ

きてあろびます 内終の二句口解

修身

格言 子ハ親ヲ大切ニセ子バナラヌ 事跡友ヲ救ヒシ獸ノ話

書取 ドレデスカ あれですよ 私が見ます 父母 梯を持ち

作文 大根 時計

習字 田畑里間坪

算術

- (一)教師口唱 三錢ト四錢ト壹錢トノ物ヲ買拾錢札ニテ釣ヲ取ル釣何程 答貳錢
- (二)考 教師口唱 三人ノ百姓ニ米五升ツ、恵タリ此総米如何
- (三)教口唱 一升四錢宛マテ麥三升賣リ之ノ金ヲ二人ニ分與スレバ一人ノ貰分如何
- (四)六百七ト大算盤に置き日本數字にて命位セシム

第二年期

讀書

尋常讀本五 三十三枚ノ裏三行ヨリ同葉終迄素讀口解共
 摘書 急ぎテ 其内ニ眠レリ 馬を追ひ出シ 見る見る深く沈見行けり
 美シキ綠色となりしかば 二郎ハ大ニ喜ビ木ヲ染むるお 但末段口解

修身

恩ヲ受ケテ忘ル可カラズ(格言) 兄弟ノ友愛ノ事跡(事蹟)

書取 投げ付て逃げ行けり 雪ハ年中あり 烟 慾深き犬 種茂蒔く 魚ヲ釣ルヲ

喜ビ 正直 約束シタリ

作文 鐵借ル口上 牛蒡

習字 早梅一枝進上仕候

体操 矯正術第一節ヨリ第十五節迄

唱歌 友達來レノ一段

算術

暗算 左ノ品物ヲ買ヒ五拾錢マテ釣ヲ取リ其釣ヲ二人ニ分レバ一人ノ所得如何

(一)五錢ツ、薪四把、三錢ツ、ノ大根束五把、貳錢五厘ノ鱒二升

(二)二十一万五百七ト算盤ニ置キ日本數字ニテ命位

(三)三圓五拾錢 四圓三拾錢 七拾貳錢 六圓拾錢 五圓七錢 八圓 拾貳圓五拾

壹錢ノ和ヨリ拾五圓七拾貳錢ヲ引ケヨ

(四)東西兩倉アリ東ニハ米二千七百二十俵アリ西倉ニハ米二千五百八十六俵アリ然ルルハ東倉ハ西倉ヨリ何俵多キヤ

第三年期

讀書

尋常讀本五 十八課初行ヨリ十行迄素讀口解

摘書 欺キ害 療治シ 早く逃げよ 雷鳴リ渡レリ 落ち付き

應用 小兒ハ六歳ニナレハ學校ニ入學シ能ク教師ノ教ニ從ヒ勉強シテ學ブヘシ

但大意口解

修身

惡シキ友ニ交ル可カラズ(格言) 勉強セシ人ノ事跡(事蹟)

書取 挨拶シ 悲ミ居れ 座敷ノ様子 物語リ澁柿 摘み取 力飽まで強く

美麗ナル花

作文 茶揉職人ノ周旋ヲ頼ム父 馬

体操 徒手体操第二法初ヨリ十二節迄 矯正術第十三節ヨリ十五節迄

唱歌 君が代一段

習字 名古屋 静岡 甲府 熊谷

算術

(一)速算 壹錢七厘五毛 貳錢八厘五毛 九錢六厘 七錢五厘 八錢貳厘五毛

六錢ノ和ヲ八倍シ二分セヨ

(二)二斗五升六合ト七斗二升三合ト八斗六升九合ノ和ヨリ二斗九升八合ヲ減シ五分

セヨ

(三)或ル人日當貳拾五錢ヲ取り大ノ月ノ家計左ノ如シ差引何程ノ殘アリヤ

玄米一升七錢五厘ノモノ三斗六升 一把四錢ノ薪十二把 一升拾錢ノ酒六升二

合其他雜費六拾貳錢ナリ

(四)六俵ノ米ヲ拾九圓五拾錢ニテ買ヘリ今此ノ割ニテ八百五十六俵買ハントス幾何ノ金ヲ要スルヤ

第四年期

作文 寄留届 息子ノ誕生ニ友人ヲ招ク父

讀書

尋常讀本七 四十八枚ノ裏初行ヨリ末葉迄素讀口解

摘書 此ノ度ノ土産 丁寧ニ之ヲ待遇シ 尤も怜悧にして 凡物 熱すれば必ず膨

脹するもの

應用文(大意口解)生徒たるも乃は朝早く起キ父母ニ禮ヲナシ食後學校ニ行キ能ク教

師ノ教ニ從ヒ言語ヲ謹ミ行義ヲ正クシ一心ニ勉強スベシ又家ニアリテハ両親

ノ言付ヲ守リ決シテ其意ニ違フ可カラズ又暇アレバ覺ヘシ學業ヲ復習スベシ

書取 諸客ノ最モ敬フベキ人ナリ 丁寧ニ是ヲ待遇シ 苦痛 空氣 木ヲ倒シ

家ヲ破ル生活

修身

記憶ハ思慮ノ寶(格言)

約ヲ堅ク守リシ事跡(事實)

翌日 明日出京仕ヘク候間相應の御用候ハ、仰付られ度候

唱歌 思ヒ出ツレバ三年ノ昔ノ一段

体操 矯正術三節十三節十四節啞鈴第二法六節ヨリ十節迄

算術

(一)速算 米二斗一升七合 三斗二升六合 五斗一升八合 二升九合 三斗七升

二斗三合 六斗一升ノ和ヘ十六ヲ乘シ八分セヨ 答四石五斗四升六合

(二)二十三反六畝十二歩ヨリ一丁二畝廿八歩ヲ引キ六分セヨ 答二反二畝七歩余二

(三)上酒一升貳拾八錢ノモノ二斗一升中酒一升貳拾壹錢ノモノ二斗五升下酒一升拾

四錢ノモノ三斗二升アリ今之ニ水五升ヲ混シ賣ルルキハ一升何程ニ賣リテ可ナル

ヤ 答拾八錢八厘余六

(四)或農夫米一俵四圓貳拾錢ノ相場ノキ小前二十三俵ヲ貸シ一俵貳圓六拾錢ノキ米
ニテ請取ラントス然ルキハ何俵請取リテ可ナルヤ 答廿一俵

第一年期 加茂尋常小學校

算術

(一)暗算茶碗二十三ケアリ内十五ヲ損スルトキハ残り何程ナルヤ

(二)實物ニテ數ヘシム 密柑十四、八、五ヲ貫ヒ内九ツヲ弟ニ與ヘタリ残り何程

(三)實物一袋十二入ノマツチ五袋アリ総テ幾何ナルヤ

(四)算盤上ニ三三十六及五十二ト置キ命位セシム

作文 大根 箆筒

習字 時日目耳口

讀方

尋常小學讀本卷ノ一第二十一課始メヨリ「ぬひとりをしませす」迄ヲ素讀口解セシム
摘書 大きな岩の下にかくまました 此馬に乗りてあろばうと思ひます
書取 こゝに六人の子どもが刀を持ち足なみろろへ正しく立ちて居ます

修身

作法 途中ニテ知ル人ニ逢フタルキノ心得

同上車馬ニ逢ヒタルキハ如何

外出及歸宅ノキノ心得

第二年期

算術

(一)暗算 或ル生徒金五錢六厘ヲ所持シ壹錢五厘ニテ鉛筆ヲ貳錢五厘ニテ半紙ヲ買
ヒタリ殘金何程

(二)金五千八百六拾五圓ヲ甲乙丙ノ三人ニ配分スルニ丙ハ壹千貳百七圓乙ハ貳千三
百貳拾五圓ナリ甲ノ取分何程

(三)上中下三等ノ茶アリ下一斤拾八錢五厘ニシテ中ハ下ヨリ拾貳錢高ク上ハ中下ノ加ヨリ九錢安シト云上一斤ノ代金ヲ問

(四)加茂學校ニ一年生四十四人二年廿六人三年生二十三人四年生十九人アリトノ内五十二人女生徒トスレバ男生徒合計幾何

作文 煙管 茄子種ヲ贈ル口上

習字 賣捌 仲買 組合 廣告 仕切

讀 方

尋常小學讀本卷三第十一課「保己一は」ヨリ「讀みつくし」程なりき「迄ヲ素讀口解セシム

摘書 此海岸にひろき砂地ありて珍しき貝からやきれいなる小石あり

正雄は同級の生徒等と書物をよみ又算術を學べり

書取 人形 春風花を持ち來る 小猫 長針 部屋 此慾深き犬 新聞賣

修 身

格言 しはき者は人にきらばれ儉約なるものは人にうやまはる(事蹟ヲ舉ケシム) 体操 矯正術第一節ヨリ第五節ニ至ル

第 三 年 期

算 術

(一)噴算 四厘五毛ノ雞卵五ツ四錢六厘ノ小豆六升ノ價合計ヲ問

(二)生徒用靴一足代金七拾五錢帽子ハ靴ヨリ貳拾三錢安シト云生徒八十六人分ノ靴及帽子ノ代金合計幾何

(三)男一人日當貳拾五錢女ハ拾八錢五厘ナリ男卅五人女十六人ノ日當各何程ナルヤ

(四)毎日白米四升五合ト麥一升八合ヲ要スル農家アリ一ケ年ニ何程ヲ要スルヤ 但一年ハ三百六十五日トス

作文 届物ヲ頼ム口上 膳ヲ借リニ遣ス口上

書取 有様 其傍に進み行 老人を見送り 失敬 深切 自然に真直 療治

讀 方

尋常小學讀本卷五「仁徳天皇は」ヨリ「三年の租税を免されたり」迄ヲ素讀口解セシム
摘書 義家は才ある武者なれども未だいくさの道知らざるは誠に惜しきことなり
煉瓦造りは美麗にして價貴き家なり

修 身

孝は百行の本(事蹟を擧げしむ)

習字 貴社新聞何日ヨリ配達有之度候

体操 徒手体操第二演習第一節ヨリ六節迄

第四年期

算 術

(一)暗算 米一俵三圓拾五錢ノ米一俵ハ貳圓三拾壹錢ナリ各一升ノ價ヲ問

但米麥共一俵四斗三升入

(二)金壹千五百六拾七圓ヲ年一割五分ニテ五ヶ年貸スルハ元利合計幾何ナルヤ

(三)東西二十五間南北二十七間ノ地ヲ金百九拾貳圓三拾七錢五厘ニテ買フルハ一坪

ノ代金ヲ問

(四)壹圓ニ八升ノ酒五斗八升へ水六升ヲ混シ之ヲ賣リテ壹圓三拾九錢ヲ利セントス

一升ノ賣價何程ナルヤ

作文 到來物ヲ配分スル文 欠席届

修 身

耻辱は高慢の跡を慕ふ 言は妄りに發す可めらず禍は口より生ず

(各事蹟を擧げしむ)

讀 方

尋常小學讀本卷七第二十七課裏「我等は何を以て」ヨリ「其船体をも見得べき等なり」

迄ヲ素讀口解セシム

摘書 吾等は緩々として細き谷と通り靜に進み道の兩傍に美麗なる草花咲き亂る、
道筋に至りて暫く休み居たるに仲間益々多くなり故勢に誇りて駆け狂ひ
て限りもなき廣き場所に出でたり

水蒸氣空中にて冷えて雲となりたるもの冷氣に觸れ凝縮して遂に水滴となる
即ち雨なり水蒸氣の氷りて白片となり降り來るものは雪にして之と顯微鏡に
で見るときは其形種々ありて且つ美しきことと知るを得べし

書取 窓の障子 座敷の飾り 容貌 軒下 勤め勵み 此樂しき道筋 鉄橋 糸を
紡ぎ

習字 手製の茶三百目御催之共進會へ出品仕候間御差加下され候ハ、幸甚
体操 陸鈴体操第二演習第一節ヨリ第六節マデ

第一年期 私立中嶋學校

算 術

(一) 敷方四十九

(二) 實物十五ヨリイクトンバ七トナルヤ

(三) 同 桃十二ト九ト七トアルトキハミナダイクツトナルヤ

(四) 同八ヒキノ鼠アリテ廿四ヒキ子ヲウミタリ其中テ十二ヒキ猫ニトランルトイマ
ダイクヒキアルヤ

作文 本 米 飯ニシテ毎日ノ食トシ又餅ニシテモ食ス

書取 草体 かんざし らつば たぬき あめ がぜ

正体 大工 ハイヘチタマス クロキスミ

讀 書

きんじよのかきのよくじゆくしました ヤヤウキヨクベンキヤウシテエンピツヲ
マシク 日本讀本初歩第二十九丁表始ヨリ五行

(一)一日ハ二十四時間ナリ五十七日ハ何時間ナルヤ

(二)本アリ一枚ノ紙ニ本字百六十字假名四百三十字アリ一冊即二十五枚ノ中ニ本字ハ假名ヨリ幾字少キヤ

(三)四百十三ケヲ七ニテ除セヨ

(四)暗算 天保錢五枚ヲ父ヨリ貰ヒ壹錢五厘ノ筆一本ト四厘ノ石筆三本ト買フトキハ幾ル錢幾何

作文 七夜ノ祝ヲ知ラセル文 書狀ノ請取

書取 晝ハ次第ニ長シ オ花サソハ常ニ絹ノ衣服ヲ着タリアク水ニテ洗ヘバ紅ノ

色青黒クナル 蜂蜜ハ甘キ汁ナリ

習字 腹痛よて本日出席相成兼候間御斷申上候

修身

修身 父母ノ教ニ如何スルヲ良トスルヤ

格言事實 和ラゲハ仇ナシ忍ベバ辱ナシノ解及事實

讀書

百姓ハ鋤鋤鎌ヲ用ヒテ田畑ヲ打チ稻麥ヲ刈ル職人ハ鋸鑿錐等ノ道具ニテ様々ノ物ヲ作ル故ニ人ノ衣食住ニ不自由ナシ

日本讀本第四 十六丁裏九行目ヨリ終迄

体操 徒手第一法 第一節ヨリ第十五節迄

第四年期

算術

(一)麥七斗四升ヲ以テ南京米九斗二升五合ニ換ルキハ麥一升ニ付南京米幾何

(二)煙草十五斤入三百六十箱アリ之ニ百八十斤ヲ加ヘ十八斤入ニ詔換ルトキハ箱數

幾何

(三)徵兵二万七千百六十人アリ之ヲ四十八宛ノ小隊ニ分チ一小隊毎ニ士官六人宛ヲ

附本ノ總計人員幾人ナルヤ

(四)金三圓五拾九錢 金貳圓七拾八錢貳厘 金拾圓貳拾六錢 金貳圓三拾七錢八厘

金拾三圓五錢 金九圓八拾錢 金四圓三錢 金三圓拾四錢五厘

金壹圓六拾貳錢 金八圓四拾九錢 幾何

作文 兩戸の直しに大工を頼む文

マツチ 本ヲ細ク割リ藥ヲ付ケテ製シ之ヲ外部ニ藥ヲヌリタル箱ノ中ニ入

レヲアルコレヲコスルトチキニ火ガデ、ツガフガヨイ

書取 枚ヲ渡リ幹ニ升ル 流行病 訴訟ノ願 職業ノ利潤ヲ分チテ政府ニ納

ムルバ税金

習字 種糊取寄せ候に付幸便に任せ差上候間御請取下され度候

圖画 筆及墨 直線弧線各十六個ヲ以テ隨意ノ圖ヲ作レ

修身

口ヲ修ルニ如クハナシノ意及事實

ナストキハ如何又急ヲ要スルキハ如何スル

書

ノ裏五行目ヨリ一節願ヒシナラム迄

機ニ用ルトキハ或ハ舟車ヲ走ラシテ速カニ遠キ處ニ達スル

機キ米ヲ搗カシムルコトヲ得ベシ

第五節ヨリ第十四節迄



明治廿四年十一月十五日印刷

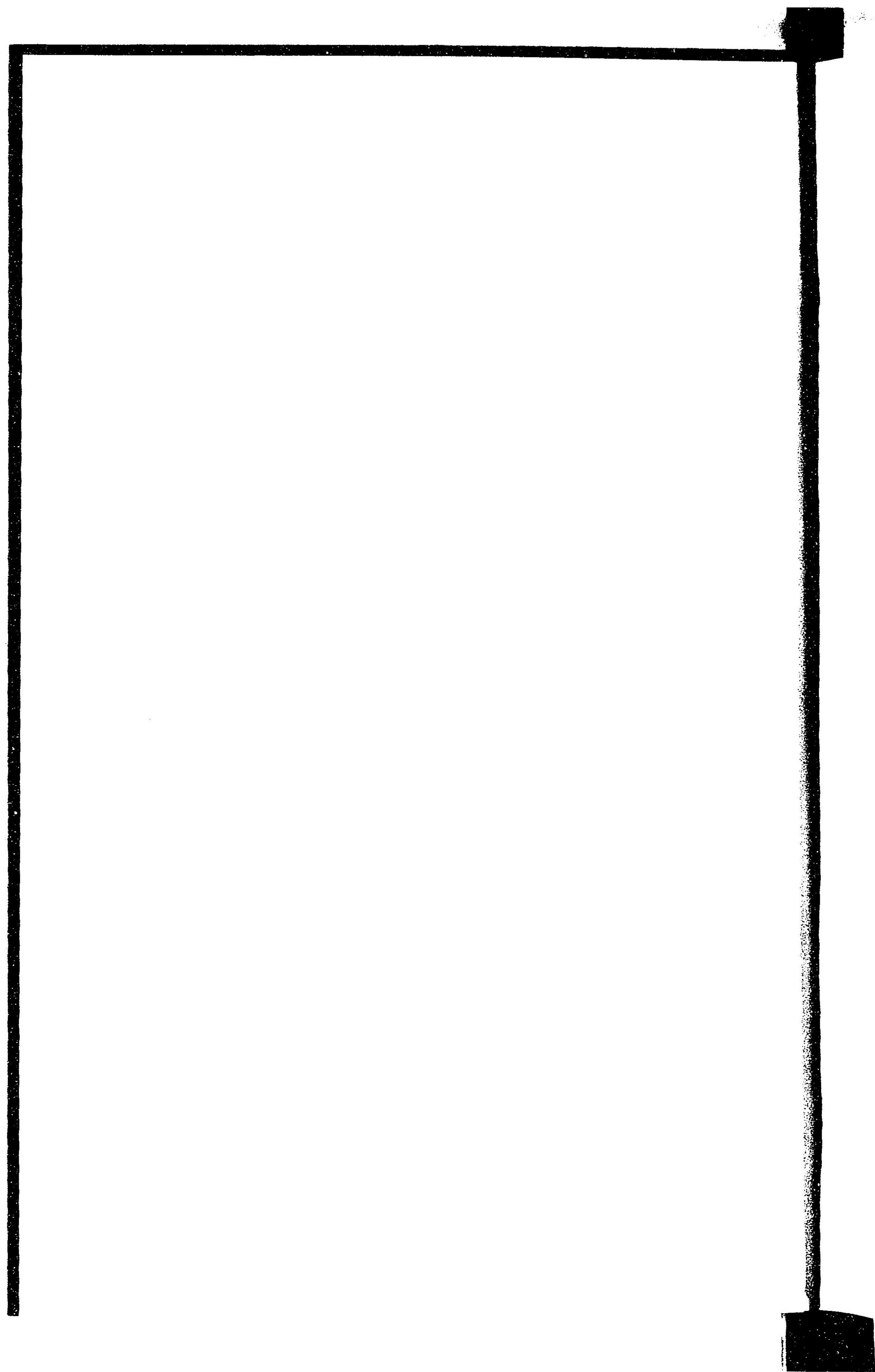
明治廿四年十一月十七日出版

著作者 静岡縣佐野城東郡役所

士 族

印刷者 酒井儀光

静岡縣遠江國佐野郡
掛川町掛川八百七番地



特26

佐野城東郡尋常小学校

259

試験問題

(明治24年3月施行)

国立国会図書館

049467-000-3

特26-259

佐野城東郡尋常小学校試験問題

(明治二十四年三月施行)

静岡県佐野城東郡役所

M24

BEM-0092



